

	LCA(ISO)	SOAGREEN	Ref.
目的	<p>本来、目的によってLCAの手法・要求レベルが異なる。逆に算定に当たっては使用目的を明確化することが前提となる。</p> <p>ISOで規定されている目的の内容は以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図する用途 ・調査をするための理由 ・調査の結果を伝えようとしている相手 ・一般に開示することを意図する比較主張において結果を用いようとするかどうか 	<p>対象は各生地商材。原糸から生地染上げに至るまでの環境負荷をレベル分け、GHG排出量を物差しとして生産工程におけるホットスポットを見える化し、レベルを定量化することで改善アクションの検討やその効果を把握するツール。目的はソアロン商材群のサステナビリティ向上</p>	<p>CF-LCAは、各工場(企業)単位の算定。SOAGREENはプロセスの積算としての商材単位の算定。</p>
算定手法	<p>バウンダリー内のinput/output全体を洗い出し対象製品の単位当たりの収支において、背負っている負荷を総和する。製品を細分化するには、個別に紐付かない共通のリソースを配分する手法がとられるが、配分手法は複数ある。</p>	<p>テキスタイル生産における様々なプロセスにおいて、使用リソースの実績モニタリングをベースに多様な品種条件の変動に呼応する変数を設定し、標準加工条件における近似的なシミュレーション値を算出。商材毎にたどるプロセスを選定積算することで商材としての負荷を定量化。</p>	<p>各プロセスを担う生産工場にて品種細分化して(総平均ではなく)CFP評価出来た場合でも、商材としての総和を評価するためには、原糸～染上げまでの各プロセス進行に合わせて評価期間(時期)を工程進行リードタイム分ずらしてやる必要があるがこれは実務上は不可能と言えるレベル。結果的に適正Lot標準フローでの理論値(シミュレーション値)ではあるが、品番評価としての精度はSOAGREEN算定の方が高いと言える。</p>
特徴	<p>過去実績の評価であり、総和としての算出数値は実態に近い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別商品(品番)での算定が困難なため、総平均での評価となってしまう。ソアロン商品間での優位差を把握しづらい。 ・品種構成差異やイレギュラー値の結果に対する影響が大きく、経年的な変化において、プロセス改善効果を分析把握しにくい。 	<p>品番としての「あるであろう※c」負荷定量値精度。品番毎の差異把握やプロセス改善効果の予測が容易。実在しない品番も想定評価可能。※c 算定値合計は実績合計値と一致しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOAGREEN算定値として、ソアロン評価にのみ使用すべき。他素材品評価は想定していない。 	